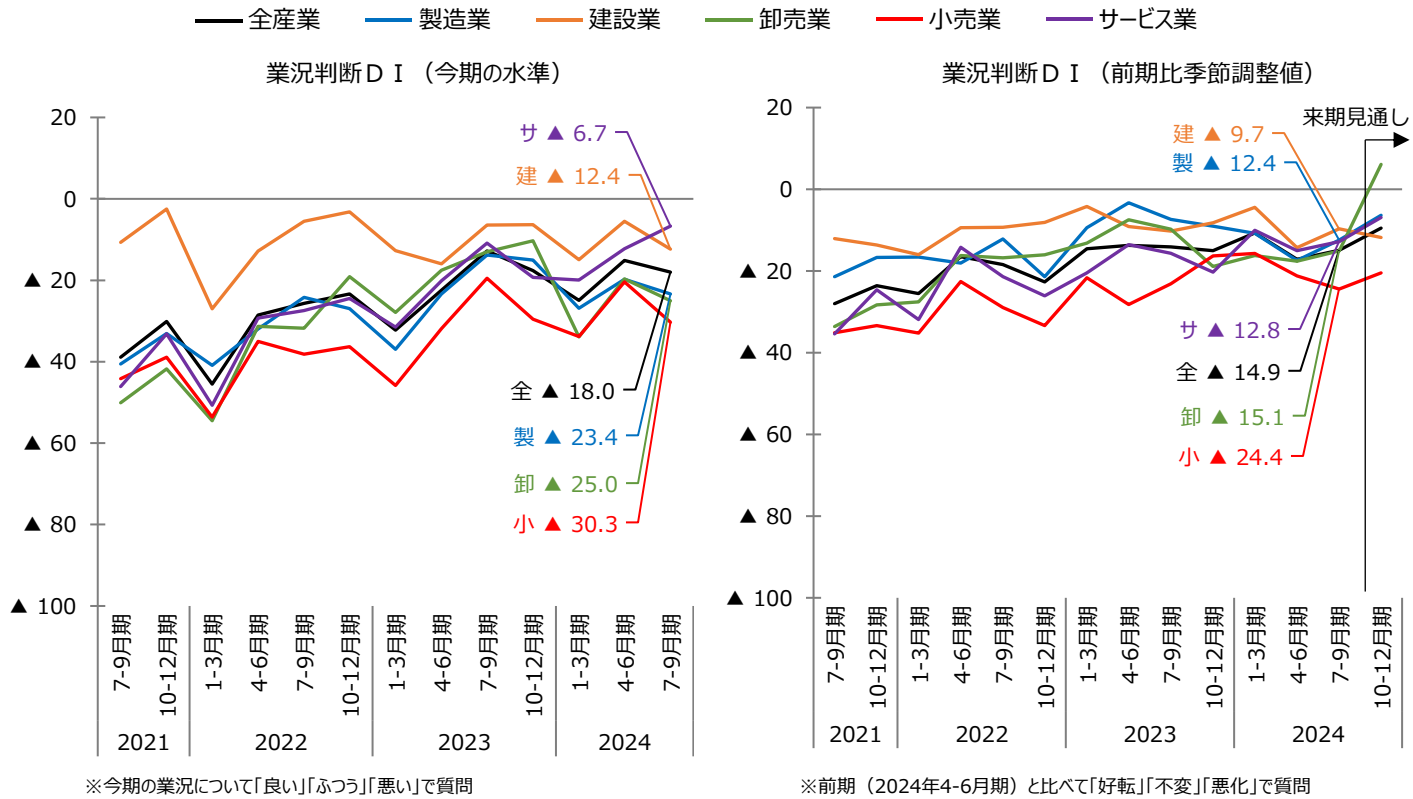


第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 北海道



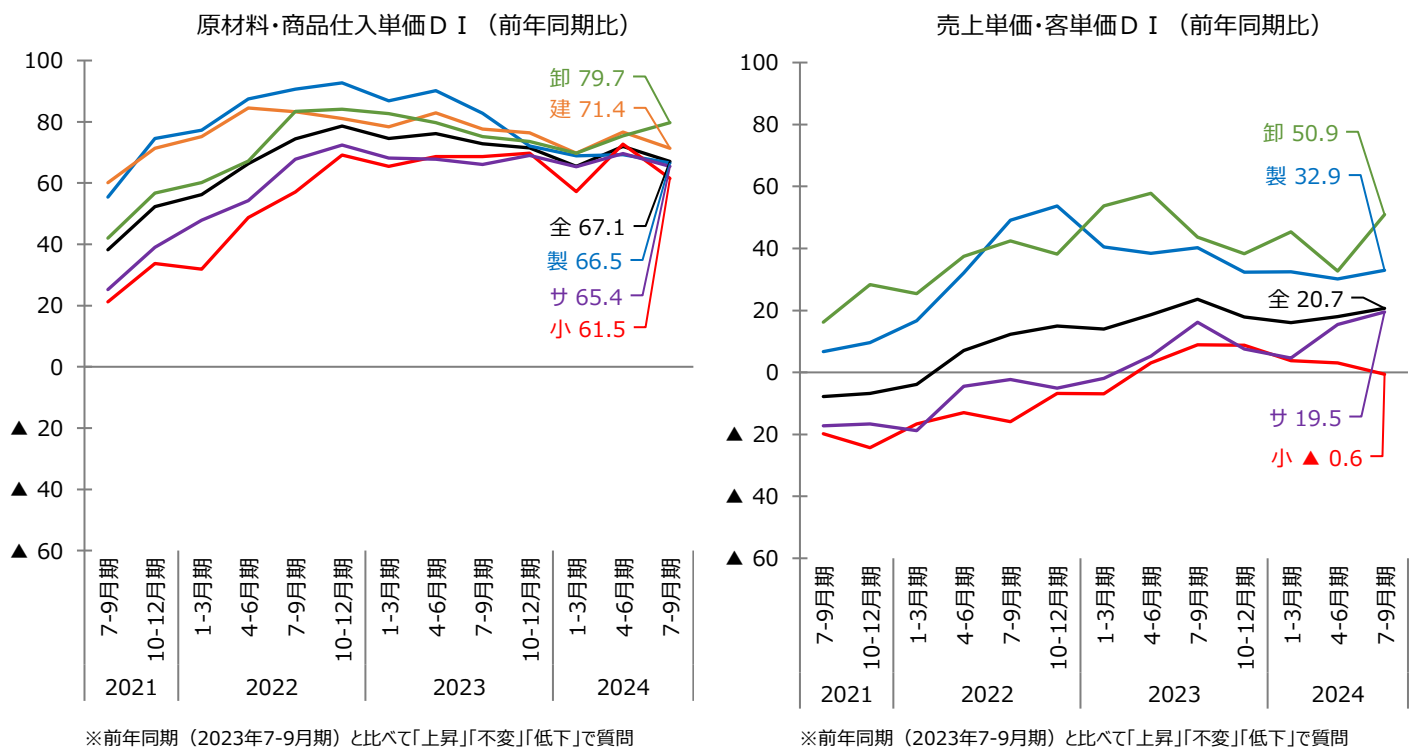
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より2.9ポイント減の▲18.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、建設業、卸売業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.9ポイント減の67.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、建設業、サービス業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の20.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
 今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、北海道：732企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 北海道

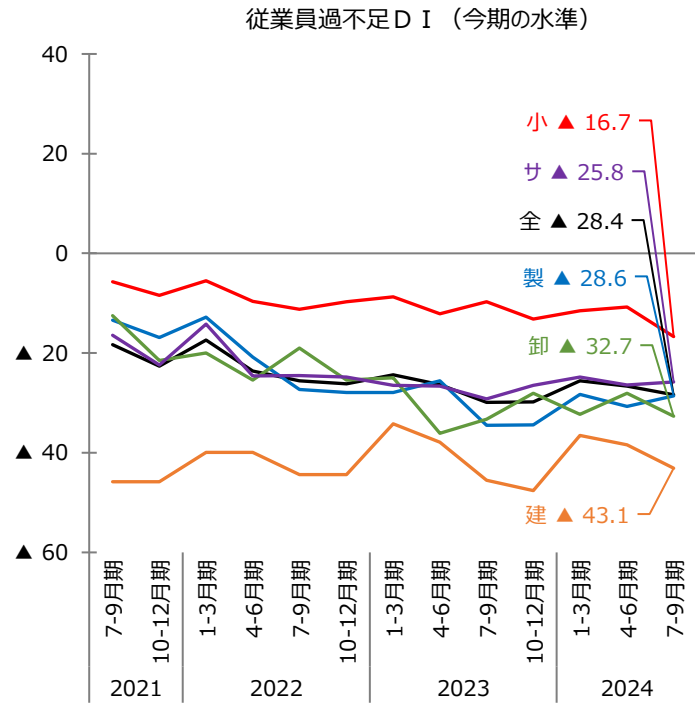
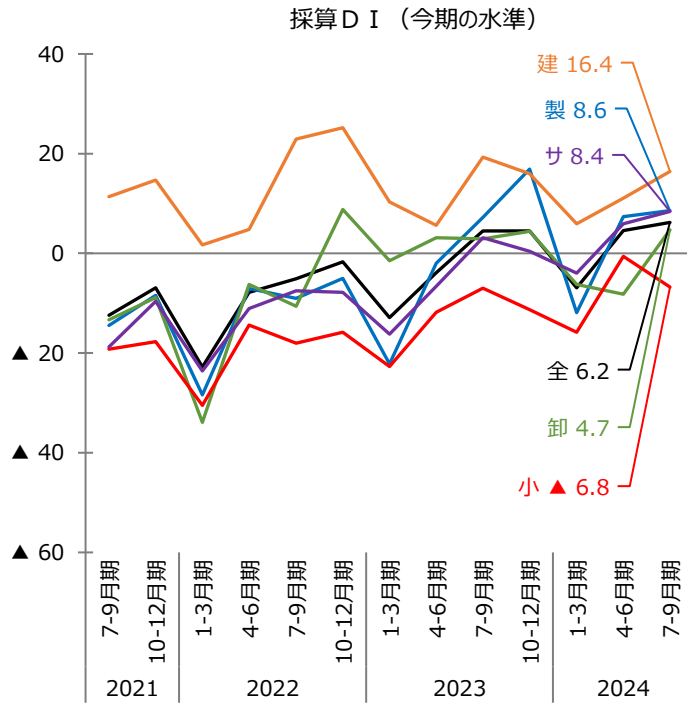


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.6ポイント増の6.2と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.8ポイント減の▲28.4と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、小売業、建設業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	円安の影響により、仕入れ価格が昨年より2割値上がりし、価格に転嫁したいところだが、コロナ後の値上がりにより毎年のように価格が上がっているため、転嫁しにくい状況。	製造業 石工品製造業
	今期は去年の猛暑により、空調関係の仕事の発注が多く出たが、道内各地で発注されるため、材料不足に加えて下請け業者の確保が非常に困難な状態となっている。2024年問題と重なって、大きな影響を与えている。	建設業 一般管工事業
	販売形態が訪問販売をメインにしているためコロナ禍以降売上低下。健康食品を扱っているが、小林製薬の問題から売上低下。	卸売業 化粧品卸売業
	店舗の客層は高齢者が多く、物価上昇が続き服飾品の購入を辛抱していると思われ、地元顧客の売上は減少している。一方で海外からの観光客が増えて日本製品を求める外国のお客様が多少増加し、減少分を補った。	小売業 かばん・袋物小売業
	ICT化により、既存の流通が変化し、クラウドが主流となっている為、利益率、人材の過剰化が進む可能性が出てくると考えられるため、社内のシステム自体を見直す時期が来ていると感じる。	サービス業 パッケージソフトウェア業
見通し	仕入単価の上昇の影響はあるが、売上が好調なため、全体的な業況は良い。来月以降でOA機器の入替を検討している。	製造業 水産缶詰・瓶詰製造業
	住宅の新築物件の減少により、リフォーム工事及びテナント工事が増加している。資材高騰により新築住宅物件が、全体的に減少しており、来年は更に減少するのかなど不安要素が多い。	建設業 左官工事業
	商品仕入単価の大幅なアップにより今後の売上に影響が出る不安がある。	卸売業 織物卸売業 (室内装飾織維品を除く)
	日銀が7月31日に利上げを決め、米国が9月に利下げを示唆し円高ドル安が進行。価格転嫁を着実に進め売り上げや利益を伸ばしたいが、国民生活に悪影響を及ぼす可能性もある。出費を控える家計が不安材料である。	小売業 他に分類されないその他の小売業
	悪いながらも安定している。これから少しずつ上向きになりそう。お客様も悪い景気に少しずつ慣れ始めているように思う。これ以上悪い景気にならなければお客様の回転も少しずつ戻ってくると思う。	サービス業 理容業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

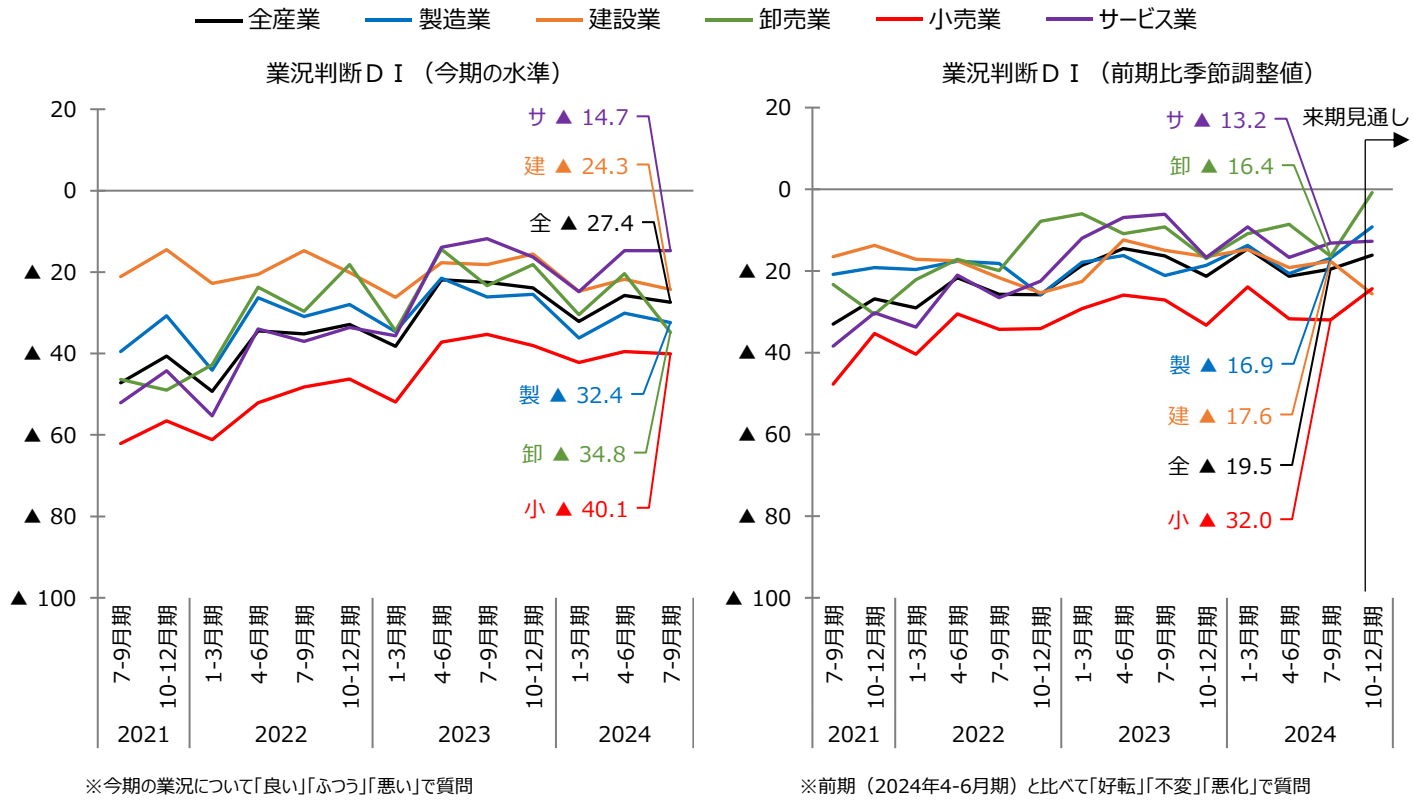
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 東北



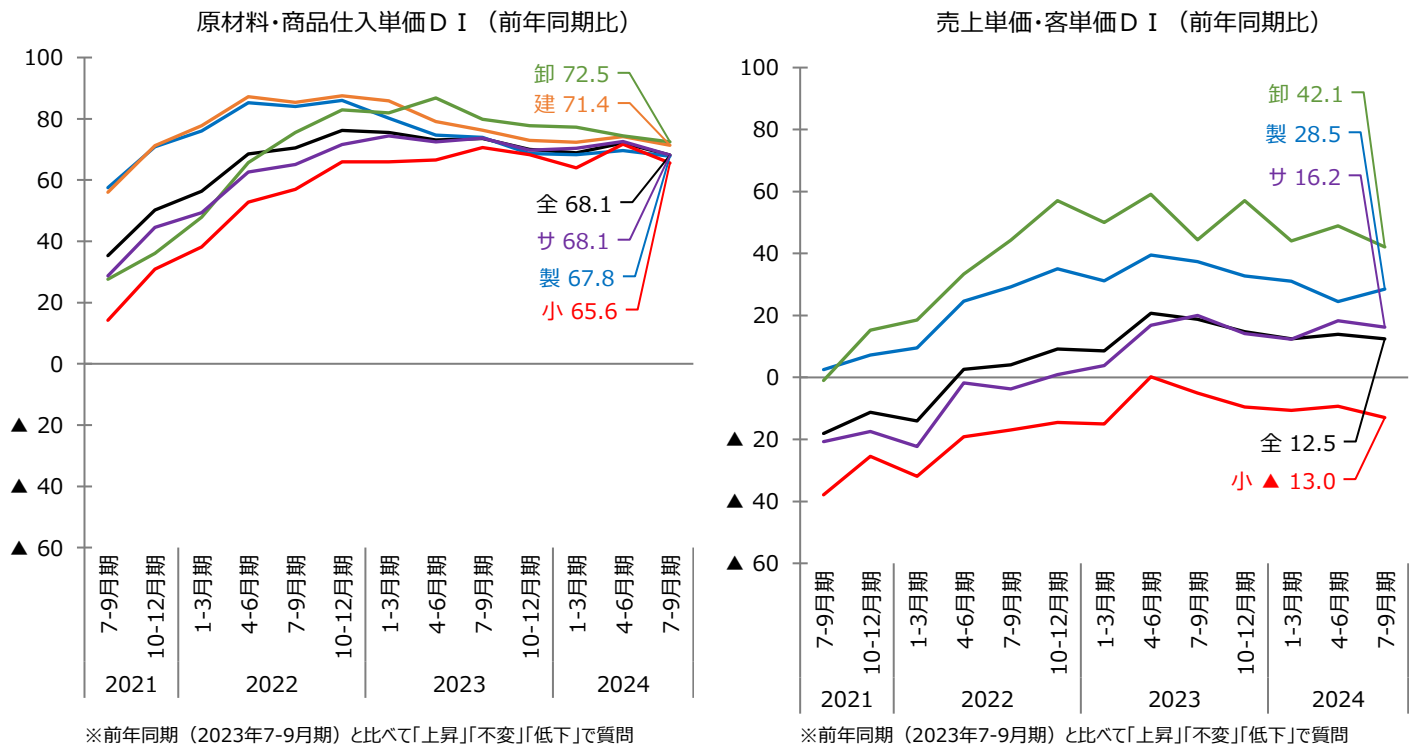
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より1.7ポイント減の▲27.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で横ばい、卸売業、建設業、製造業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.0ポイント減の68.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の12.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
 今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、東北：1,847企業

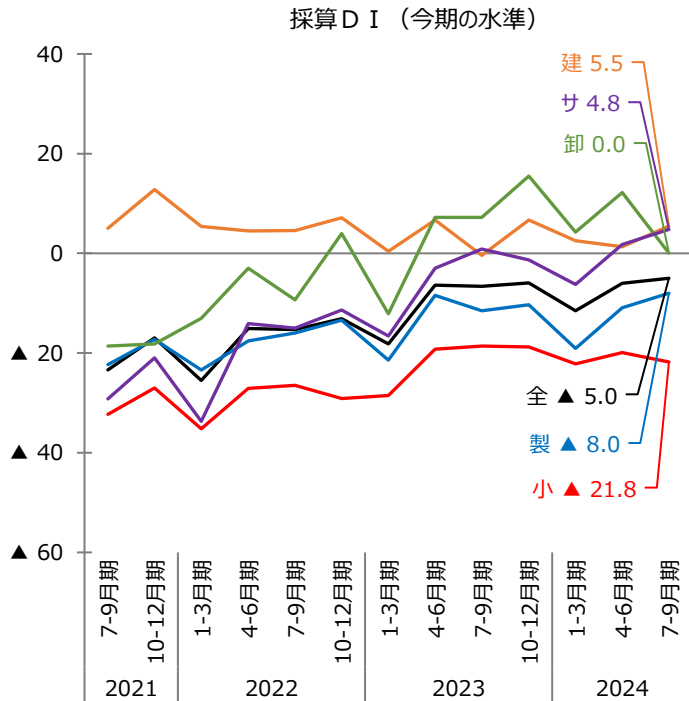
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 東北



3. 採算

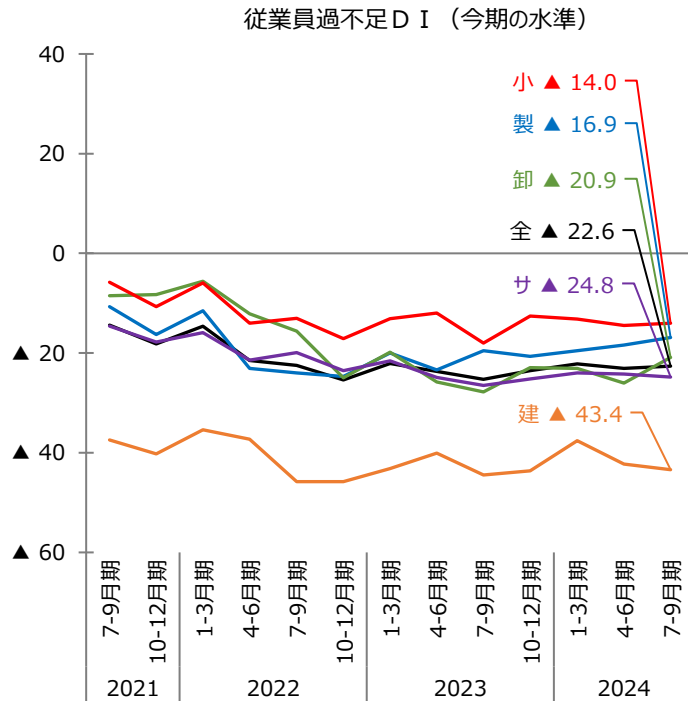
採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント増の▲5.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の▲22.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、小売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	天候不順により農産物の収穫高が悪く、原材料不足のため例年より早く商品の製造が終了し売上の減少となった。	製造業 生菓子製造業
	資機材価格、労働単価ともに上昇しており、原価の高止まりである。見積もり価格、受注価格ともに上がってはいるが、全てをカバーするには至っていない。	建設業 一般土木建築工事業
	少子高齢化の影響によるマーケットの縮小および農業生産者減少が続いており、業況の悪化に歯止めがかからない状態が続いている	卸売業 野菜卸売業
	夏の暑さがとてもひどく、生花の売上げが下がるようになった。今後暑さがもっとひどくなるようであれば気温変化に耐えうる提案をしていくべきかと考えている。物価の上昇に関してはこちらでできる術がないと感じる。	小売業 花・植木小売業
	前年に比べて、売上は増加傾向で推移しているものの、材料仕入れの高騰が経営状況を圧迫しており、価格転嫁、新規客獲得などクリアすべき課題は多くあると感じている。	サービス業 酒場、ビアホール
見通し	取引先の農家の廃業や、異常気象による農産物の不作などにより売上が減少した。今後はりんごなどの収穫時期になるが昨年度は不作だったが今年度は現状良さそうなのでりんご箱の売上げの増加に期待したい。	製造業 木箱製造業
	従業員の高齢化に伴い、現場の機動力が徐々に失われているようだった。人材確保が少子化の影響でますます困難になりつつあり、事業継続する上で、今後に残された重要課題となっている。	建設業 一般電気工事業
	商談会・展示会への出展有無により売上に大きく差が出る。仕入価格高騰や競合他社により状況はかなり厳しい。代表自身が高齢、身一人であることから動ける範囲に限界があり、新たな変化を生じることが難しい。	卸売業 各種商品卸売業（従業員が常時100人以上のもの）
	原油価格が低下すると景気は好転すると思われる。一方で米価が高騰すれば、仕入単価が上昇し、販売単価も上昇することから売上減少が懸念される。	小売業 米穀類小売業
	今期の4～7月は原因不明の来客数減少があった。コロナ禍以降、徐々に回復傾向だったため想定外であった。8月以降は全国的な猛暑によりアウトドア関連の外出が減少したのかもしれない。来月以降の予約状況は回復傾向。	サービス業 他に分類されない物品賃貸業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

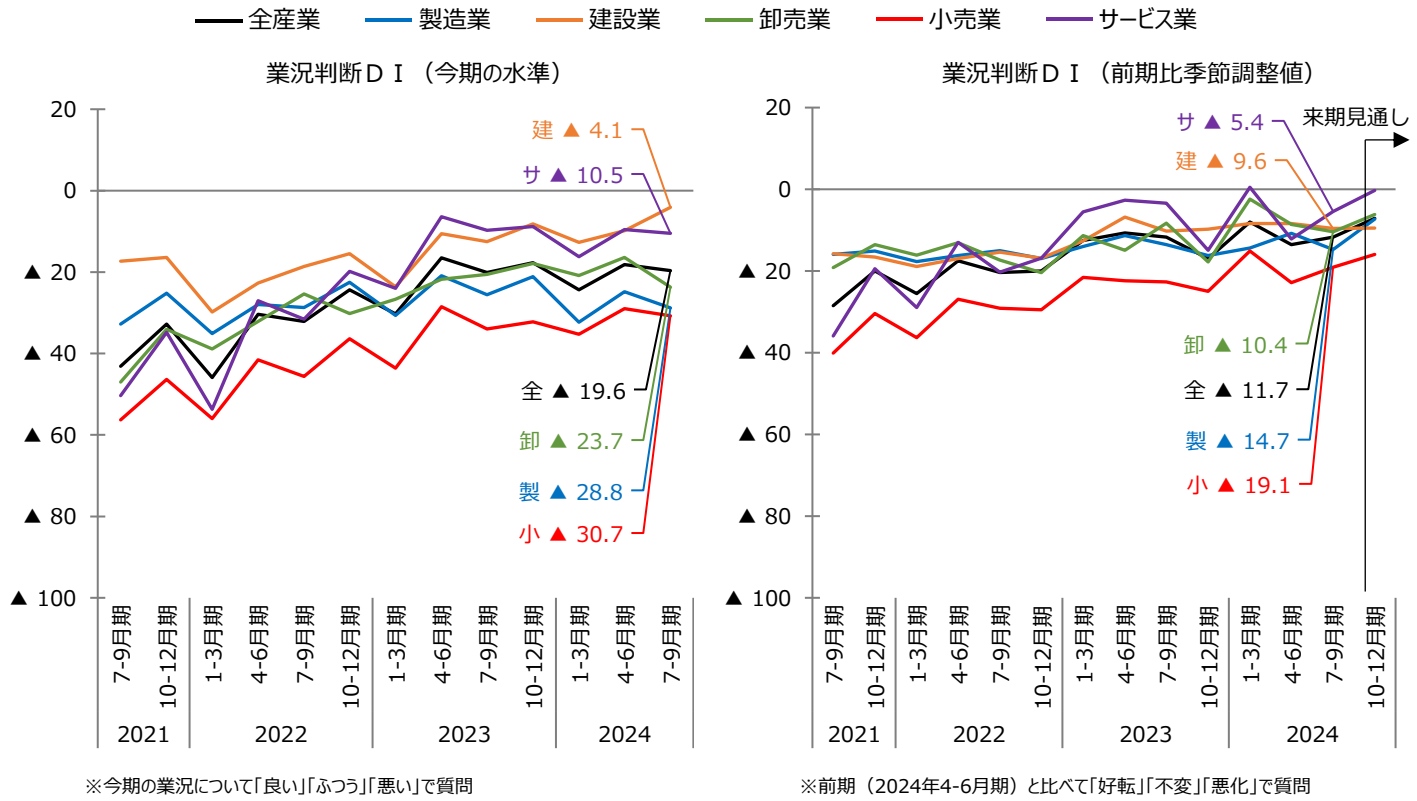
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 関東



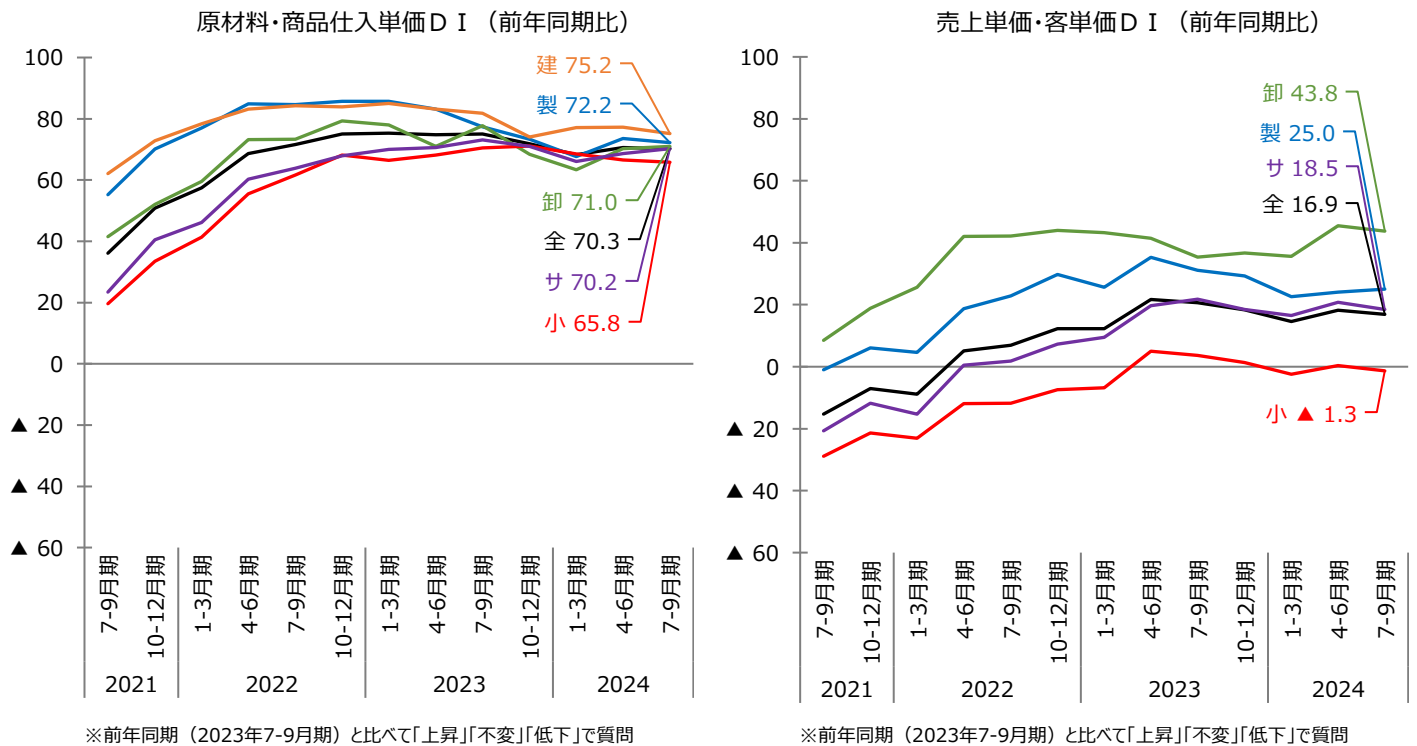
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より1.4ポイント減の▲19.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、小売業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の70.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業、卸売業で上昇し、建設業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の16.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、卸売業、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、関東：4,819企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第177回 中小企業景況調査 (2024年7-9月期) 関東

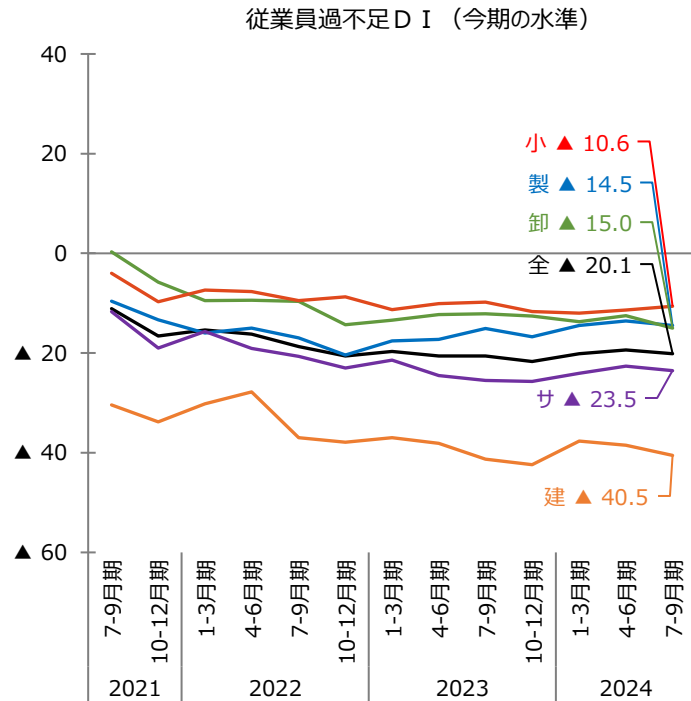
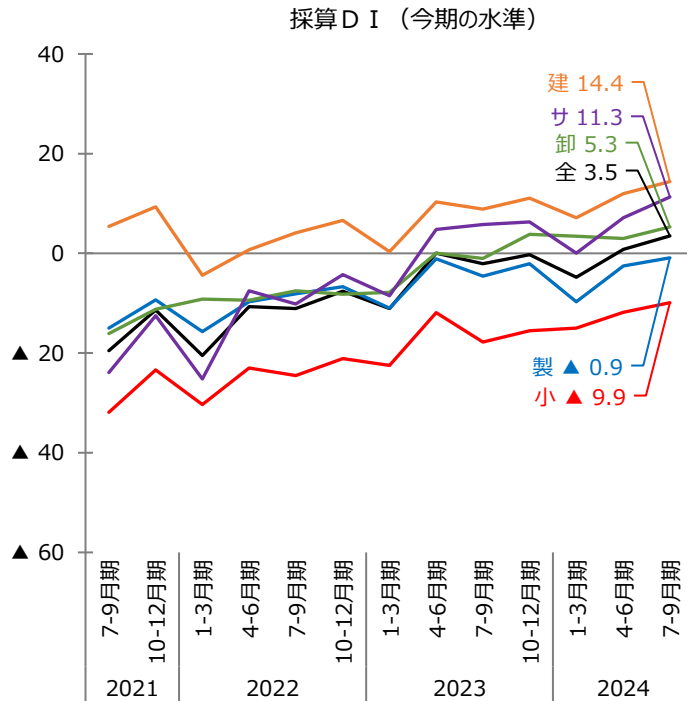


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の3.5と2期連続して上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の▲20.1と3期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、建設業、製造業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	仕事の受注量は今年が少ない中、エネルギー・原材料や人件費も上昇。人手不足もあり、戦争・世界経済・為替等、不安要素が沢山有り過ぎる。	製造業 他に分類されない金属製品製造業
	どれだけ売り上げても燃料（ガソリン）代と材料代にコストを費やしてしまう。瓦屋根をつける家が減少しているのも原因のひとつだと思う。気温も湿度も高いので1日の作業で大量の飲み物代が発生する。	建設業 屋根工事業（金属製屋根工事業を除く）
	コロナが収束し引き合いが強くなったところ、円安・物価高騰のおおりに受けて消費行動が法人・個人ともに収縮。同時に仕入れ単価が商品によって30～50%高くなる状況で、販売単価に転嫁しきれず利益が出にくい。	卸売業 その他の衣服卸売業
	物価高騰が止まらず消費者は低価格に流れる。価格競争はしないが、価値があっても高いものに手が伸びない状況。生活必需品の米が倍近く上がり、酒などに使用のお金が減っている。	小売業 酒小売業
	前期から訪日外国人観光客が訪れているが、売上には結びついていない。8月に発生した地震や台風により、外出を自粛する傾向にあった。さらに猛暑による影響から、外出を控えているため売上は減少傾向にある。	サービス業 酒場、ピヤホール
見通し	環境配慮型を目指してSDGsの承認を得ている。少しずつだが、各業界全般にわたり理解が進んでいる様子が見えるので、自社の強みを活かした対応をしていきたい。	製造業 他に分類されない窯業・土石製品製造業
	現状はあまり変化がなく、相変わらず従業員の確保が難しい。人手不足が業界全体的にあり、それが人件費の増加と下請け単価の上昇につながっていると思われる。	建設業 一般土木建築工事業
	海外売上が増えた分円安の恩恵を受けているが、国内売上が円安により原価が引き続き高止まりをしまっている。引き続き為替を注視していく。	卸売業 その他の農畜産物・水産物卸売業
	コメ不足の報道で注文も多少増加したが、仕入れ動向が難しく、コメ値上げで需要が落ち込む恐れもあり、先行きは不透明。年金暮らしの消費者も多く、卸的志向で値上の難しさがある。	小売業 ガソリンスタンド
	自然災害等の影響により観光客のマインドにも少なからずマイナスとなっているが概ね堅調に集客の成果がみられる。仕入価格も上昇しているが、価格転嫁も適正に行っているため特に問題は感じられない。努力していきたい。	サービス業 旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

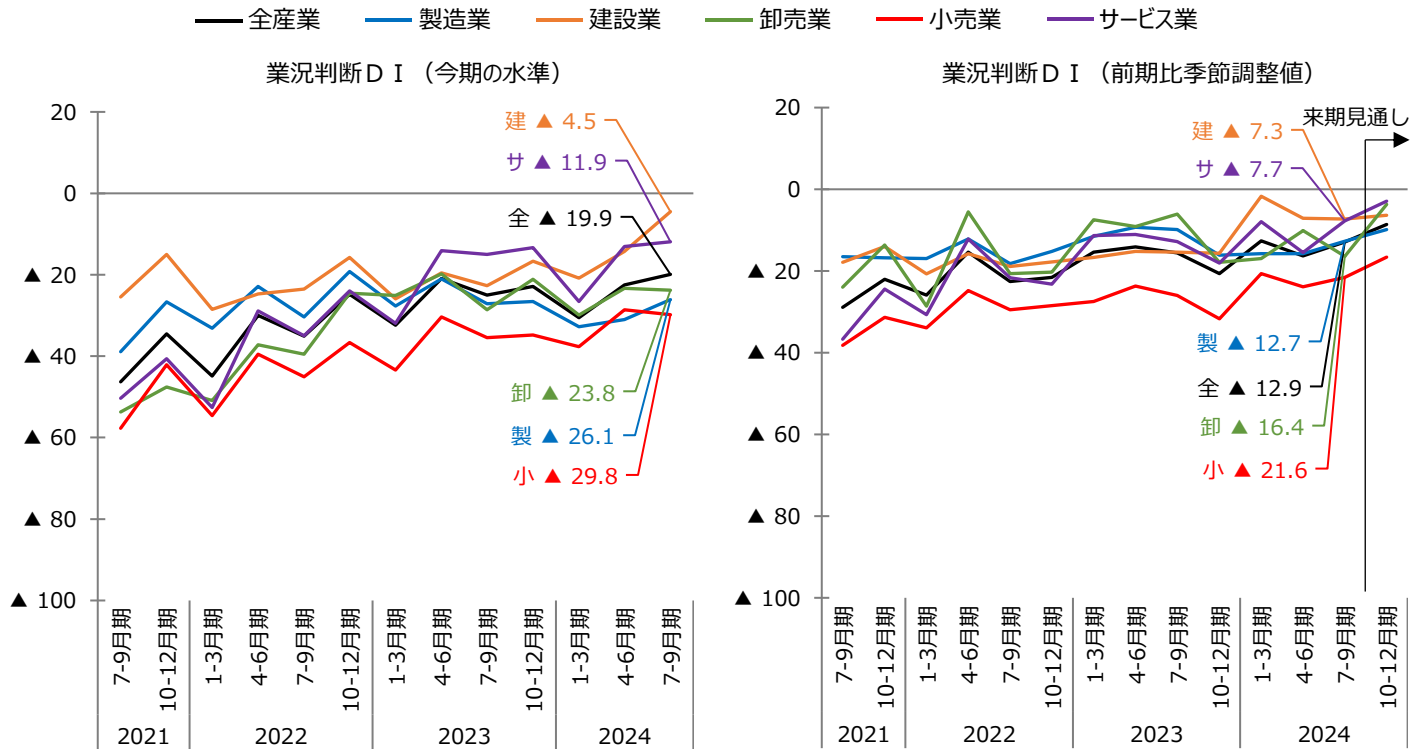
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 中部



1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より2.6ポイント増の▲19.9と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。

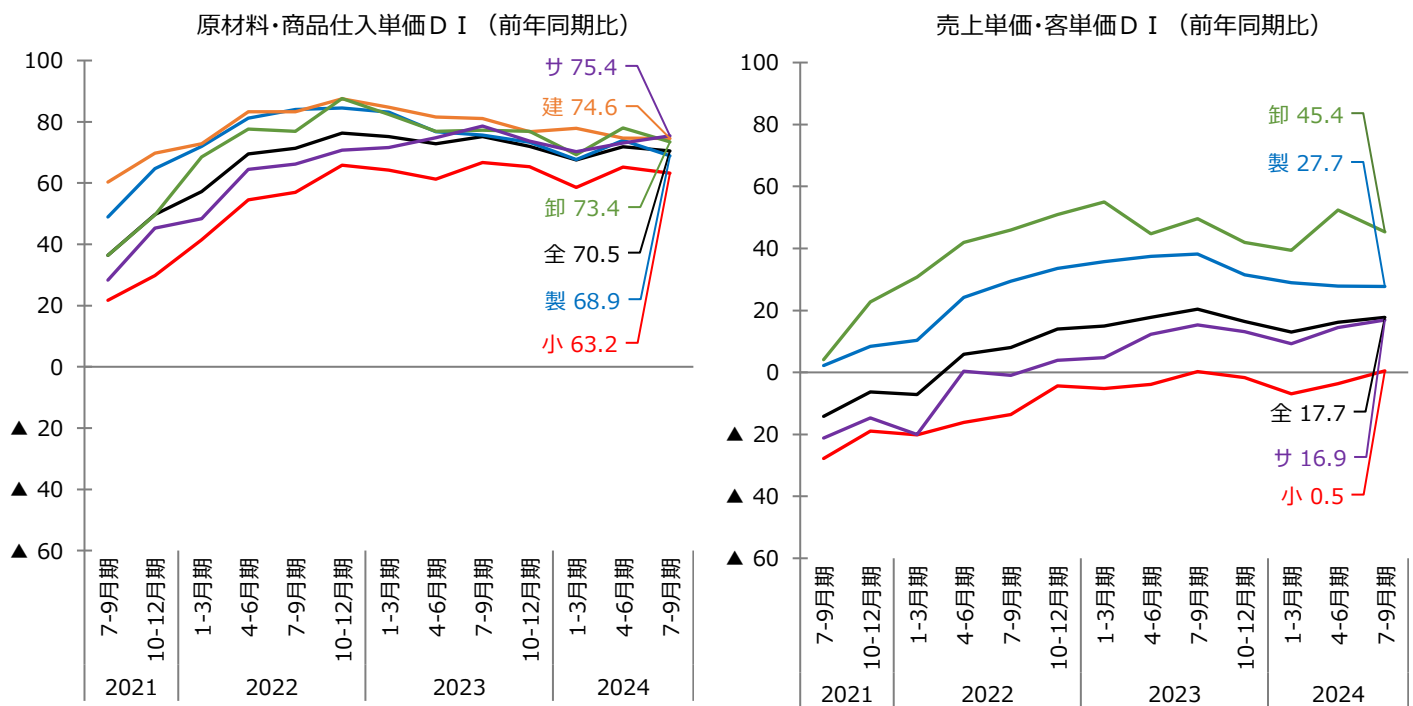


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2024年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント減の70.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、製造業、卸売業、小売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント増の17.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



※前年同期（2023年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2023年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、中部：2,250企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第177回 中小企業景況調査 (2024年7-9月期) 中部

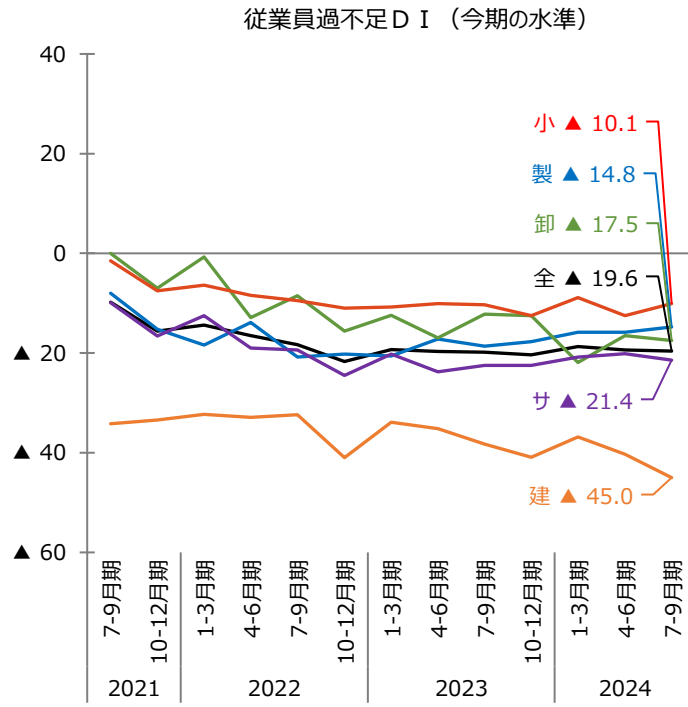
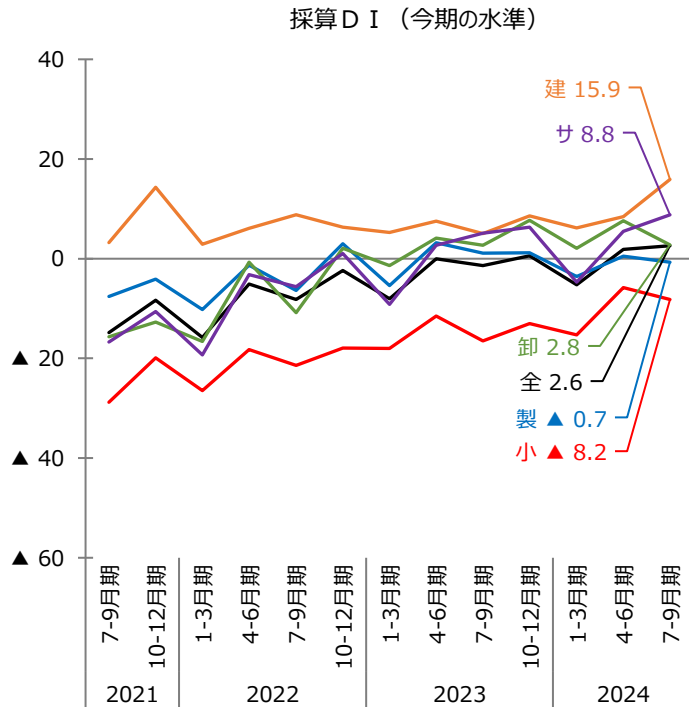


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の2.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲19.6と2期連続して低下した。産業別では、小売業、製造業で上昇し、建設業、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	下呂市内旅館ホテルの改装需要がひと段落したことで、計画的な受注が減少している。又、主要寺社の改装が終わったことで寺社からの仕事も減少している。寺社専門の工務店が弱くなっており、仕事が減少。	製造業 畳製造業
	建設業界では人手不足が深刻である。働き方改革による規制もあり、下請業者の単価が上昇している。材料費の上昇もあり外注費にも影響している。見積りに反映させているが、すべてが補えているわけではない。	建設業 特殊コンクリート工事業
	商品・原料価格の上昇が続いており、利益率を圧迫している。コロナ時に銀行から借りた借入金の返済が資金繰りに影響している。	卸売業 その他の農畜産物・水産物卸売業
	地震や台風等自然災害が多くなり、コロナの時も大変だったが、観光業にとってなかなか状況が好転しない。それにより客の好みが変わり、みやげ物も変化が大きくなかなか対応するのが困難となってきた。	小売業 その他の各種商品小売業 (従業員が常時50人未満のもの)
	夏休み合宿等で予約があるが、南海トラフの特別注意の情報発信、台風により予約のキャンセルがあった。今後も地震など不安でいっぱいである。	サービス業 旅館, ホテル
見通し	酷暑の影響か、受注が低調である。全ての物サービスが高騰している中で交渉なく値上げを通知一枚で済ます会社が多いが、業界全体で協力して支払条件、取引方法を組み立てていかないと将来はないと考える。	製造業 毛織物業
	公共工事の発注が増えてきており、受注に取り組んでいる。受注が重なってくるのを踏まえ人員の確保が課題となっている。	建設業 土木工事業 (別掲を除く)
	売上単価上昇により売上増加が見込まれる。仕入単価も上昇しているが、仕入量を増やすことで値引獲得により原価上昇をカバー。人材の増加に伴い人件費は上がっているので、売上につながる業務ができるかが今後の課題。	卸売業 菓子・パン類卸売業
	顧客ニーズを反映して、7月から原材料を小麦から米粉に変更した。この変更により、原材料費が上昇したので、9月から販売価格を上げる予定であり、業況の変化がどうなるか様子見である。	小売業 菓子小売業 (製造小売)
	生成AI技術により、2025年以降はデザイン・動画・WEBサイト制作等の仕事を未経験者でも中堅クラスの仕事ができるようになっていくと予測しており、それに伴って受注額の低下が起きてくる。	サービス業 広告業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

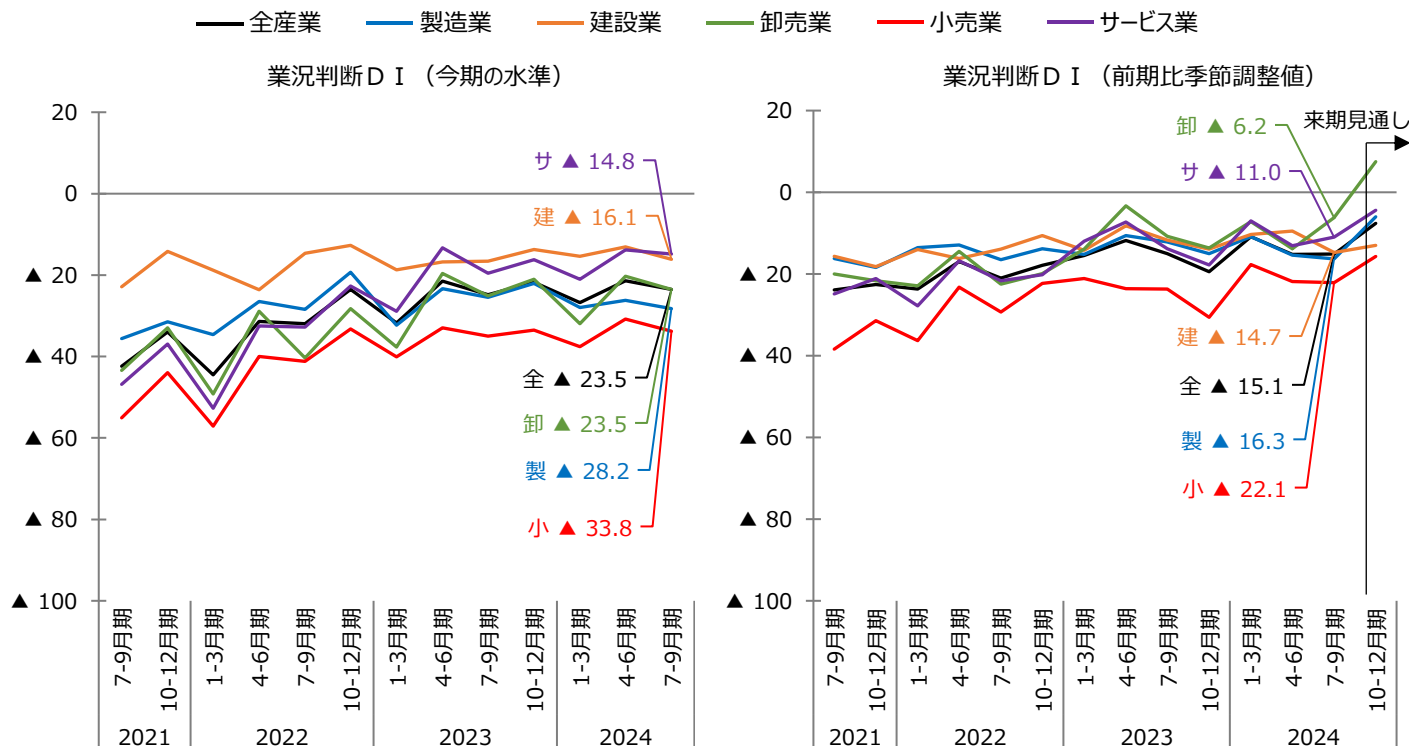
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 近畿



1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より2.1ポイント減の▲23.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

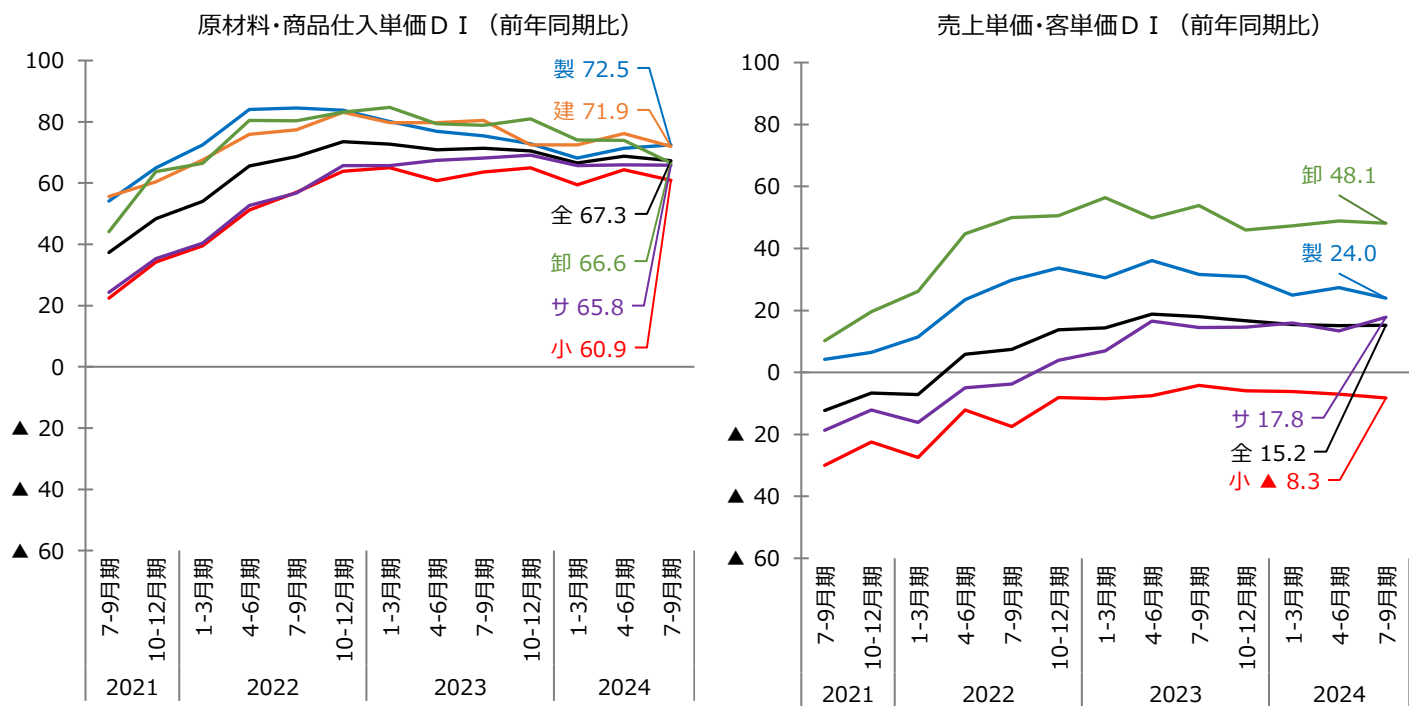


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2024年4-6月期）と比べて、「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント減の67.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、建設業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.1ポイント増の15.2と5期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業で上昇し、製造業、小売業、卸売業で低下した。



※前年同期（2023年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2023年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、近畿：2,405企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 近畿

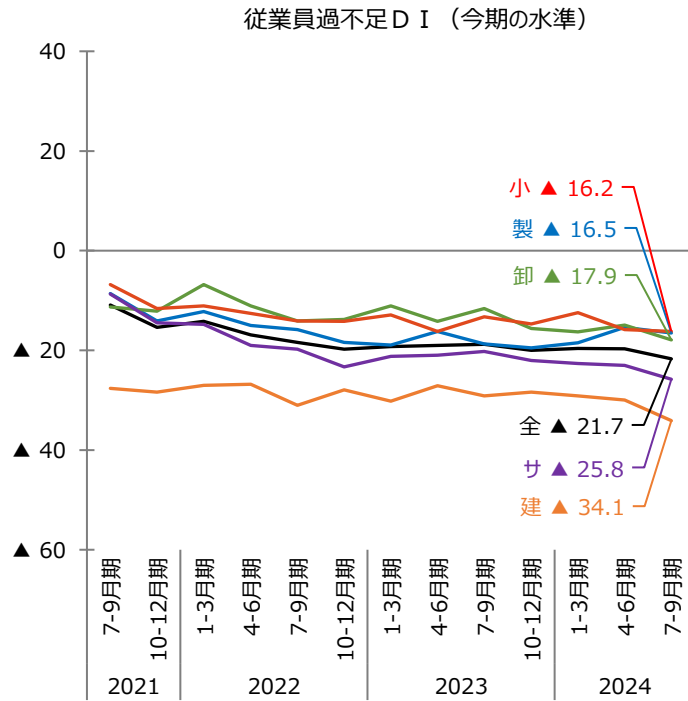
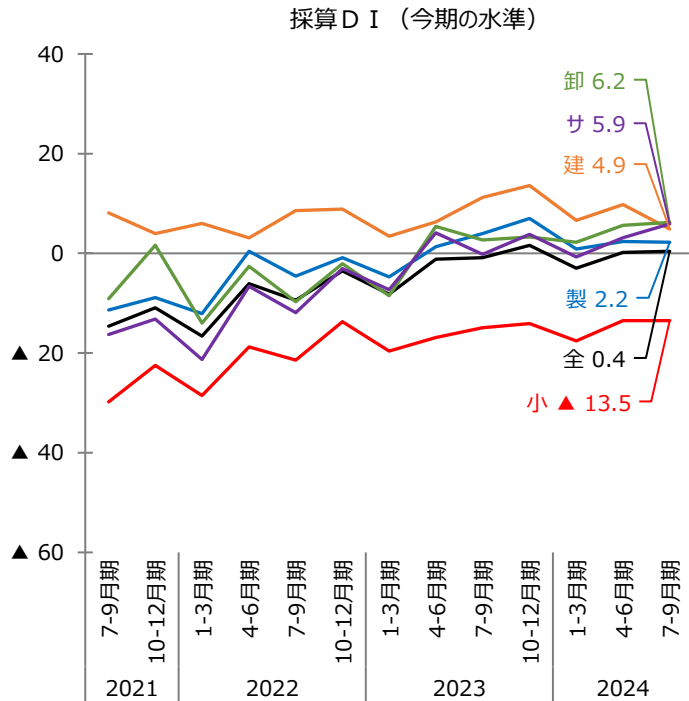


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の0.4と2期連続して上昇した。産業別にみるとサービス業、卸売業で上昇し、小売業で横ばい、建設業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の▲21.7と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	原材料価格が上昇して利益は減少している。この原材料価格は高止まり及びまだ引き続き上昇していて、今後も下がりそうにない。販売価格を上げる必要があるが、まだ出来ていない。	製造業	金属工作機械製造業
	原価価格の高騰にあわせ販売価格に転嫁しないといけませんが、インターネット情報の普及や安売り業者の増大で販売価格の競争が激化し、販売価格に転嫁しづらく下請業者への支払賃金も上げられない状況が加速していく	建設業	建築リフォーム工事業
	漠然とした不安があり、「不安定で先が読めない未来」に対して、事業継続の不安がある。利益確保にも四苦八苦している。環境が変化するぞという、風潮に焦っている。このまま行ってほしいし、何とかしたい気持ちだ。	卸売業	自動車部分品・附属品卸売業（中古品を除く）
	季節的に暑さが厳しい中、購買力の低下が見受けられる。人件費の上昇に伴う価格転嫁が難しく、ボトルネック状態が発生している。材料等の仕入価格の上昇が継続しつつある中で、苦しく厳しい経営となってきている。	小売業	パン小売業（製造小売）
	仕事量は伸び悩みでも2024年問題の対応や猛暑で体調不良者が増加の為、ドライバーが増えているにも拘らず人手不足に陥っている。運賃が上がらない中、人件費は高騰し熱中症対策の経費も増大している。	サービス業	一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）
見通し	国内生産及び需要の鈍化が進む中、金利上昇による企業収益の悪化と、人件費をあげても手取りがふえないため個人消費の負の連鎖が起こっている。電気代や燃料費高騰の製造コスト増など国内景気の先行き不安を抱える。	製造業	空気圧縮機・ガス圧縮機・送風機製造業
	従業員、熟練技術者が大変不足している。今後更なる人手不足による影響を受けると予測。規模縮小も考える。	建設業	給排水・衛生設備工事業
	為替の安定感を欠き、収支が見えづらい。値上げ圧力も一段落したところに金利引き上げがあり、対応に苦慮している。建物、設備の老朽化も大きな課題となっている。設備投資意欲の冷え込みを心配している。	卸売業	その他の産業機械器具卸売業
	6～7月は売上は昨年より減少ぎみであったが、猛暑のせいでもあるが8月は例年以上に売上があった。9月に入ってから売上の減少が心配である。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	警備員の確保が大変難しい。外国人の採用もその他の業種ではいろいろ手を打っているが、警備業では難しく、業界が一丸となって取り組み、業界全体がもっと仕組みづくりをし、優秀な外国人雇用につなげていただきたい。	サービス業	警備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

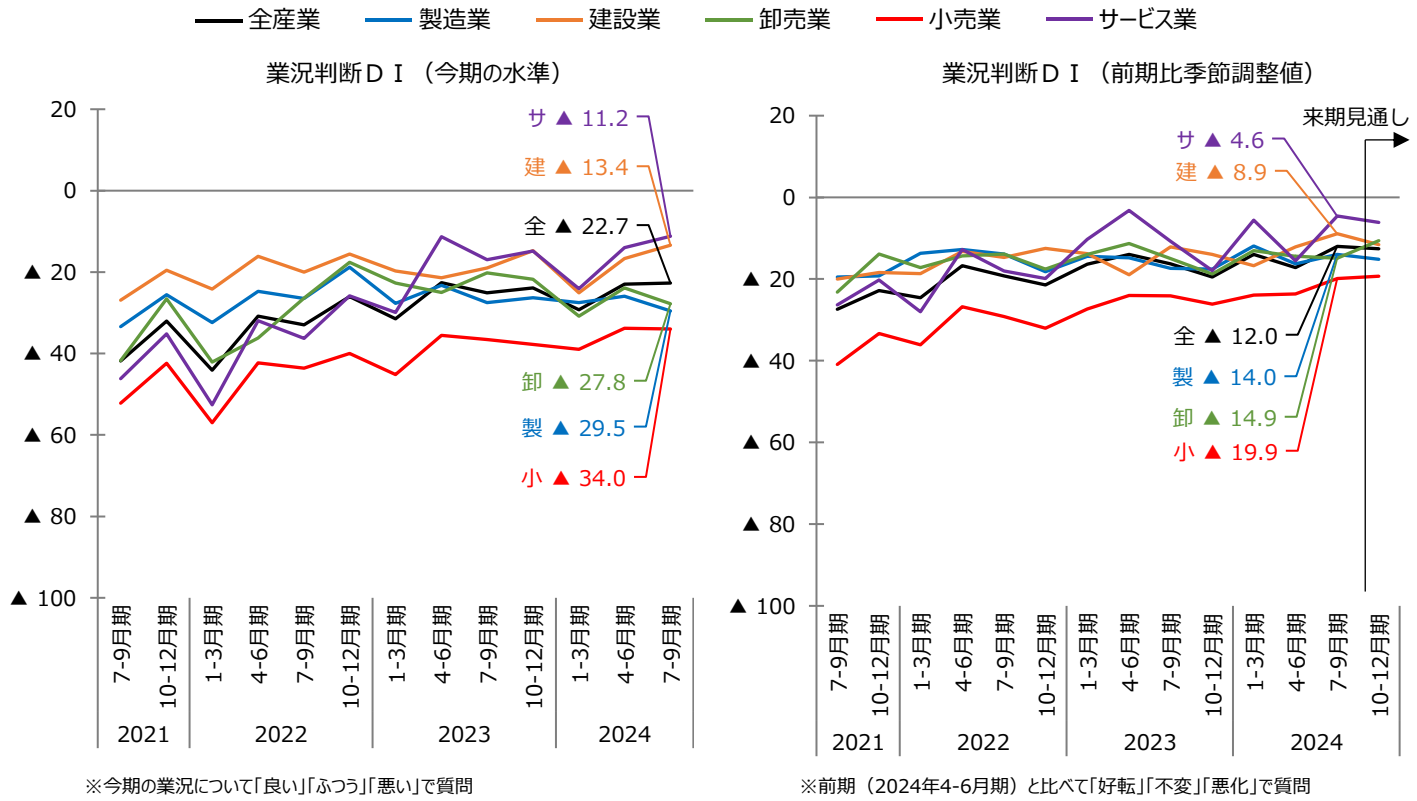
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入することから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 中国



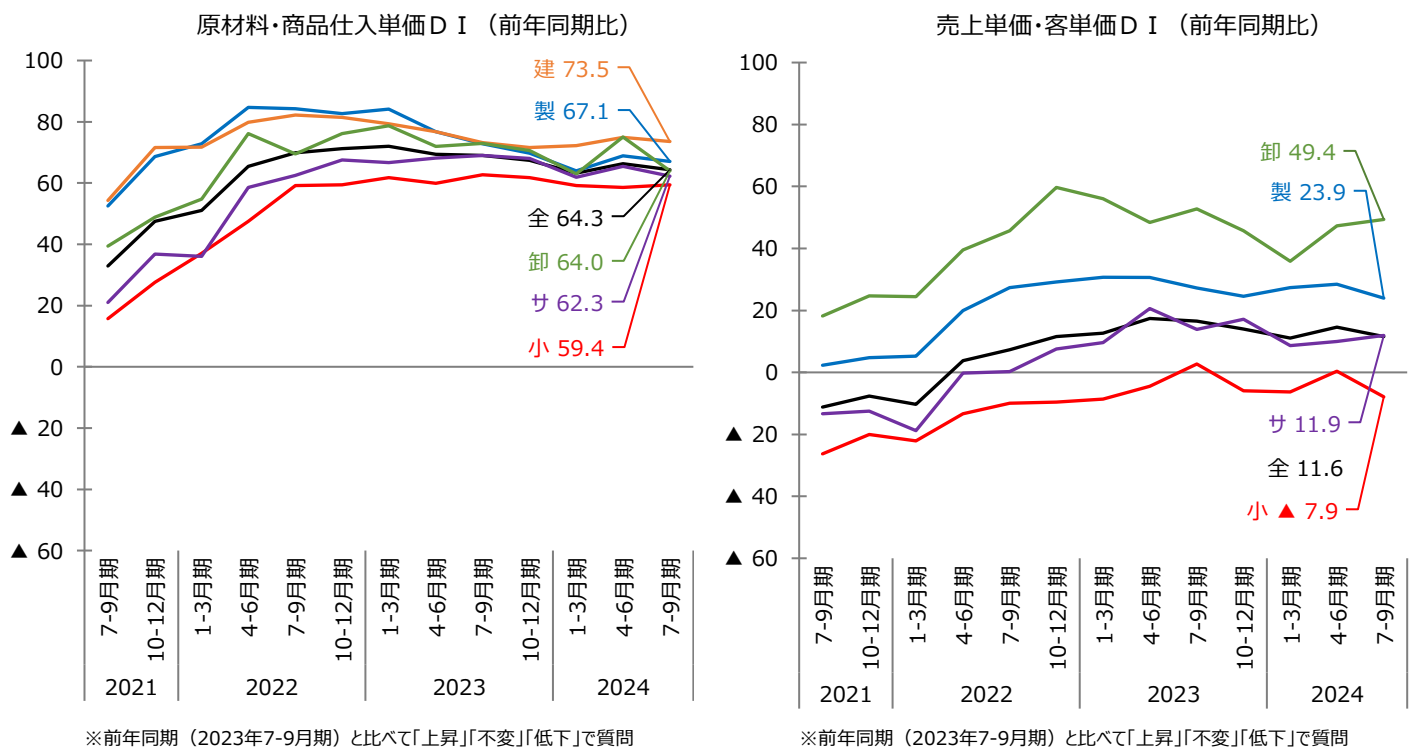
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より0.3ポイント増の▲22.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の64.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.0ポイント減の11.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、小売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、中国：1,645企業

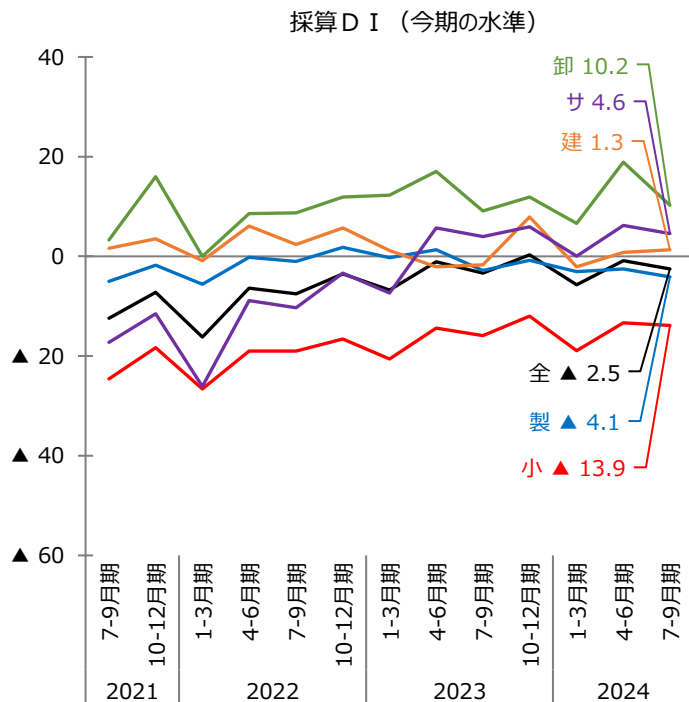
※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第177回 中小企業景況調査 (2024年7-9月期) 中国



3. 採算

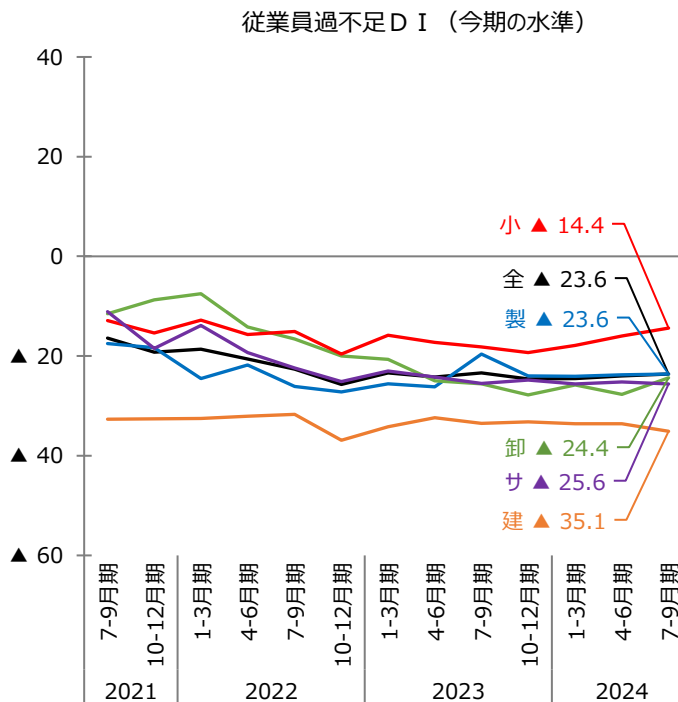
採算DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の▲2.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の▲23.6と3期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	夏は閑散期だが想定以上に8月が動かず。価格交渉や価格転嫁もできず8月売上の少なさも資金繰り不安も。来期以降の予定は120%あまり回復見込みだが、売上低迷のツケもあるため会社の回復には時間を要す。	製造業 配電盤・電力制御装置製造業
	人手不足が続いているため仕事内容も変えていけなくなっている。働き方改革を考えながら現場の仕事をこなしていくには課題がまだまだある。中小企業にとって仕事を続けていくことが難しい。	建設業 一般土木建築工事業
	F A 事業は製造業の設備投資が一服し、受注は低調に推移している。空調事業はリニューアル案件の引き合いが多く、猛暑もあり受注は堅調である。脱炭素関連では、自家消費太陽光発電の引き合いが多い。	卸売業 電気機械器具卸売業 (家庭用電気機械器具を除く)
	コロナ5類移行後にやっと、恒例の祭り等イベントや小宴会が復活した夏だった。暑さで売り上げを助けてもらったようだ。少しは好景気を実感できると我々小売業も助かってくる	小売業 酒小売業
	季節の影響を受けているのが現状。当社は繁華街付近に立地しており、徒歩で来られるお客さんが多いため、午後からのお客さんが昨年より減っているような印象がある。	サービス業 衣服裁縫修理業
見通し	受注量は増加しており、今後も増加が見込めるが、人材不足のため対応に苦慮している。人材紹介や、ハローワークに募集を出しても、人材の確保ができていない。	製造業 他に分類されない金属製品製造業
	公共工事の契約工事は今季はまだ下準備といったところ。夏季繁忙は猛暑もあってエアコン工事中心だった。また、新たに公共事業の入札も成立したこともあり、来期以降の売上も上昇の予定となる。	建設業 一般電気工事業
	ほぼ全ての扱商品が値上りになり、お得意先に値上げをお願いして利益率の改善が出来ましたが、お得意先が少しでも安価な仕入を検討されるようになり、納入業者の競争が激しく今後は厳しさが増すように思います。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	小売店舗も厳しい状況だが、E C 事業の需要が極端に下がっており、今後への取り組みが追い付いていない。過去の業績を参考に事業の縮小や新規事業にも取り掛かっているので業績向上になれば考える。	小売業 他に分類されない織物・衣服・身の回り品小売業
	今期の現在までは昨年同様もしくは多少悪い数字ではあるが、長年取り組んできたブランディング事業が契約として事業化する相手先が増える。今後はその取組についてと仕事のキャパ等について考える必要がある。	サービス業 デザイン業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

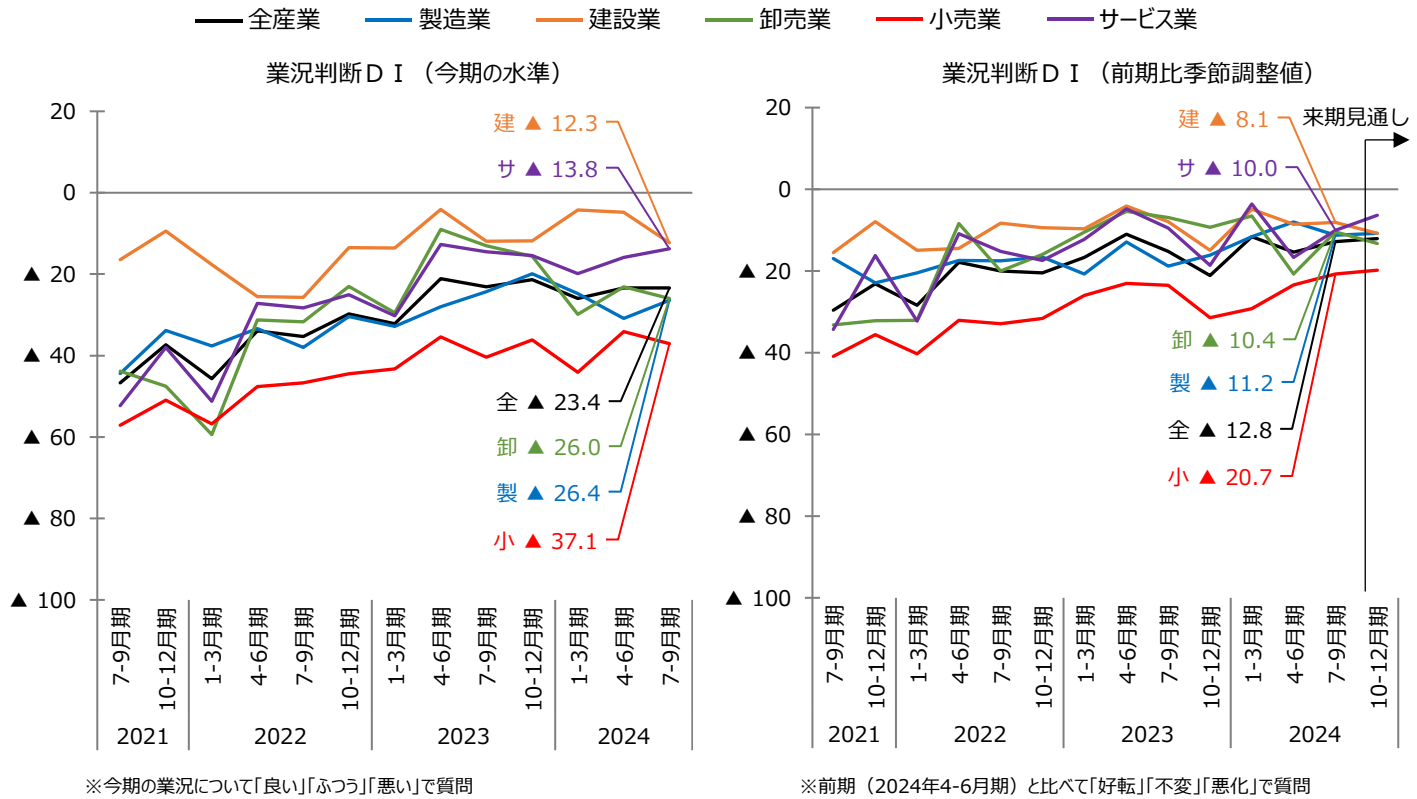
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 四国



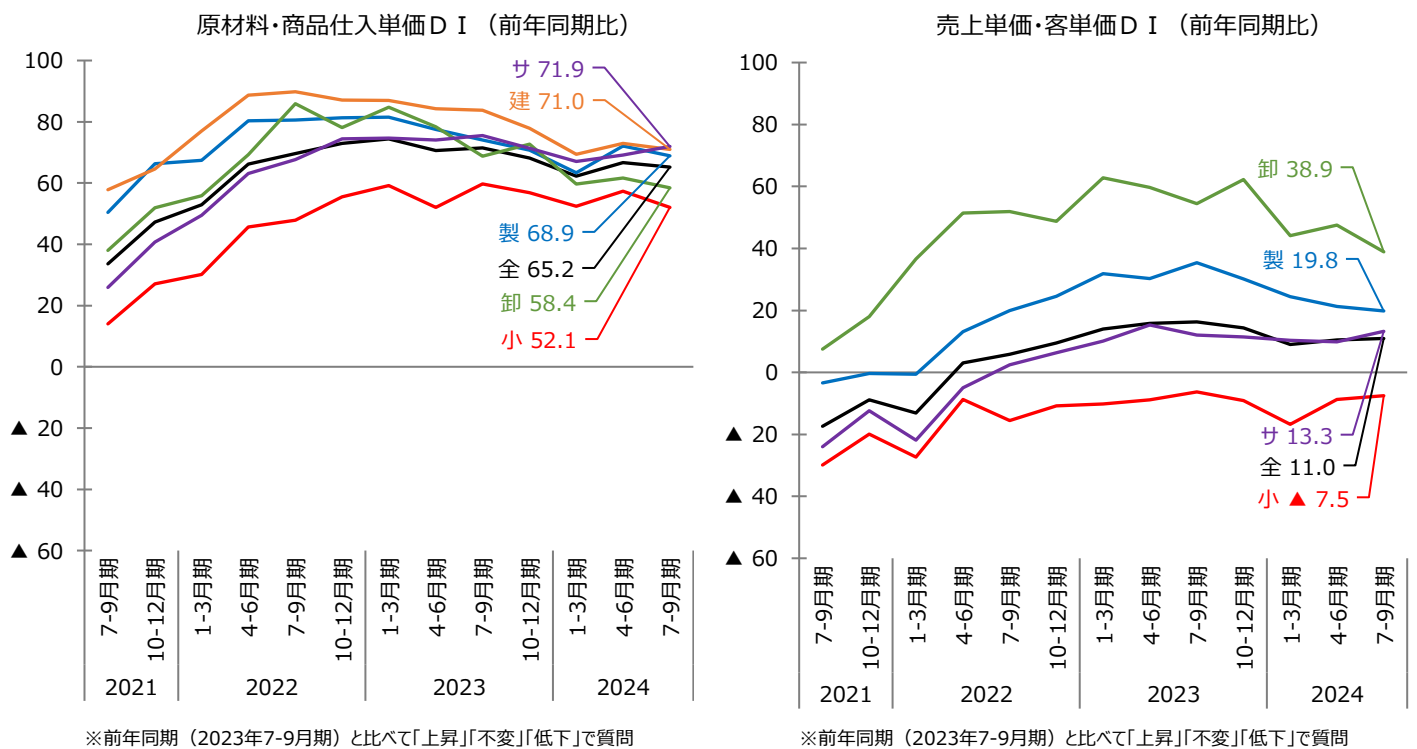
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より横ばいの▲23.4となった。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、建設業、小売業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.5ポイント減の65.2と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、製造業、卸売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の11.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、四国：1,272企業

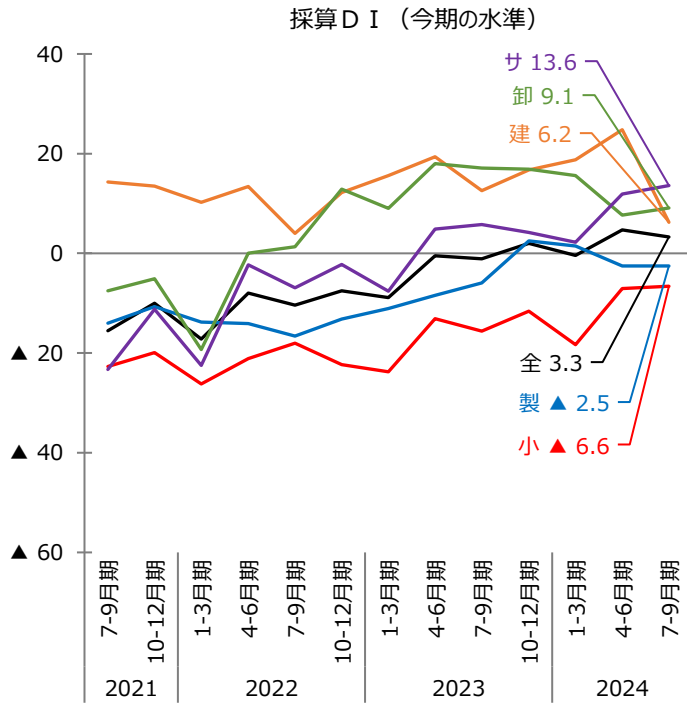
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 四国



3. 採算

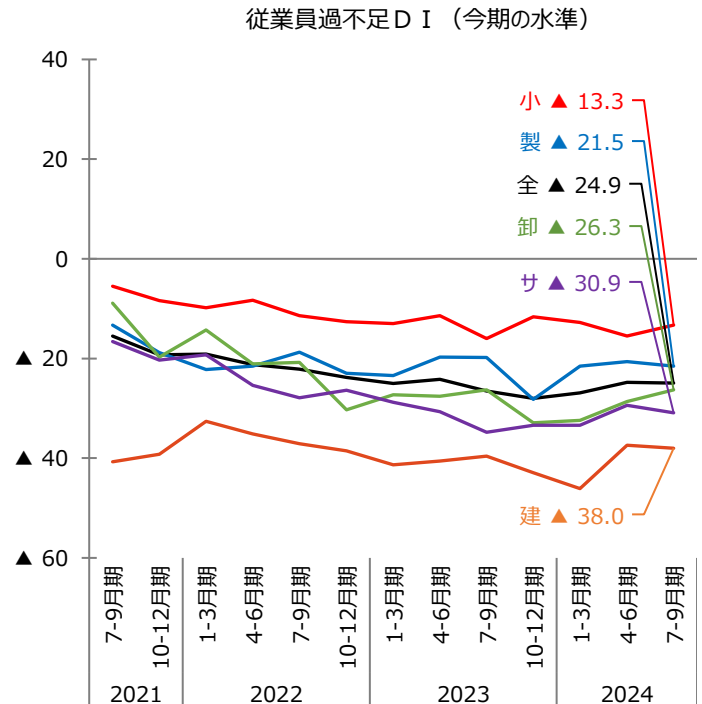
採算DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の3.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業、卸売業、小売業で上昇し、製造業で横ばい、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲24.9と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、製造業、建設業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	前年同期より売上は上昇したが、コロナ前までの回復には程遠い。原材料は年間に何度も値上がり続け、借入利息も上がり、依然として景気回復とは思えない。	製造業 製本業
	公共工事の減少による売上低下の中、材料等の仕入単価の上昇が響いており、資金繰りが悪化傾向にある。仕事が減っている現状では人材は適正数だが、今後、売上拡大を望むのであれば技術者が足りていない。	建設業 一般管工事業
	仕入価格・販売価格の高騰（値上げ）で、市場がかなり厳しい状態で、売上がなかなか上がらない。	卸売業 輸送用機械器具卸売業（自動車を除く）
	今期は、猛暑による植物の生育不良や生育時期がずれたりして、繁忙期になかったり、運送会社の働き方改革の影響が物流が止まったりして、商品を確保するのに大変だった。そのため、高値が続いている。	小売業 花・植木小売業
	特積みの物量が若干低下している。運賃は思うようには上がっておらず、軽油代、備車費の上昇により採算は悪化している。運転手はもとより事務系社員の募集も難しくなっている。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）
見通し	現状は引き合いは多いが受注には至っていない。そのため退職勧奨を行いながら筋肉質経営に転換している。職場環境の改善、待遇改善に努めており離職率は低い。次の課題は若い従業員の育成である。	製造業 他に分類されないその他の製造業
	工事施工キャパシティを超える引き合いがあり、従業員、職人不足のため、断る物件が多くある。選別受注状態が続いている。仕事があるのに受注できない悩みがある。	建設業 一般土木建築工事業
	ペーパーレスとデジタル化で需要が減少しているが、さらにメーカー各社が値上げを発表しているので、さらなる紙離れが加速すると予想される。	卸売業 紙製品卸売業
	業況は安定しているが人件費、光熱費の高騰で、収益確保は困難になりつつある。経営者の高齢化により、対応に限界を感じている。地域に必要な不可欠の店なので事業継承してくれる企業があれば譲ることを考える。	小売業 百貨店、総合スーパー
	材料費、人件費、光熱費などが高騰し、利益を出すことが難しくなってきた。人件費をあげないと人材確保が難しいため、これからが少し不安になる。AIやロボットやシステムについても検討しなければならない。	サービス業 喫茶店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

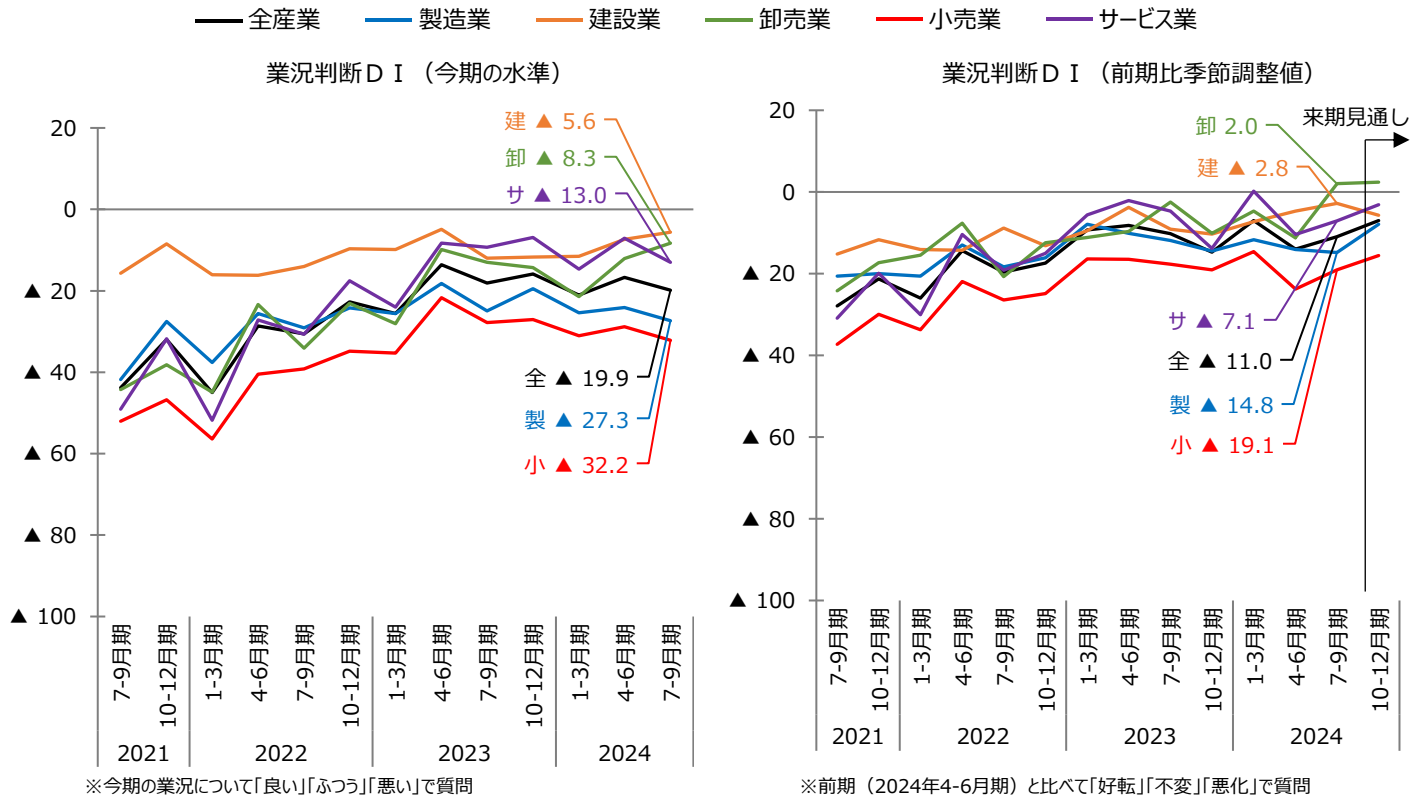
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第177回 中小企業景況調査（2024年7-9月期） 九州・沖縄



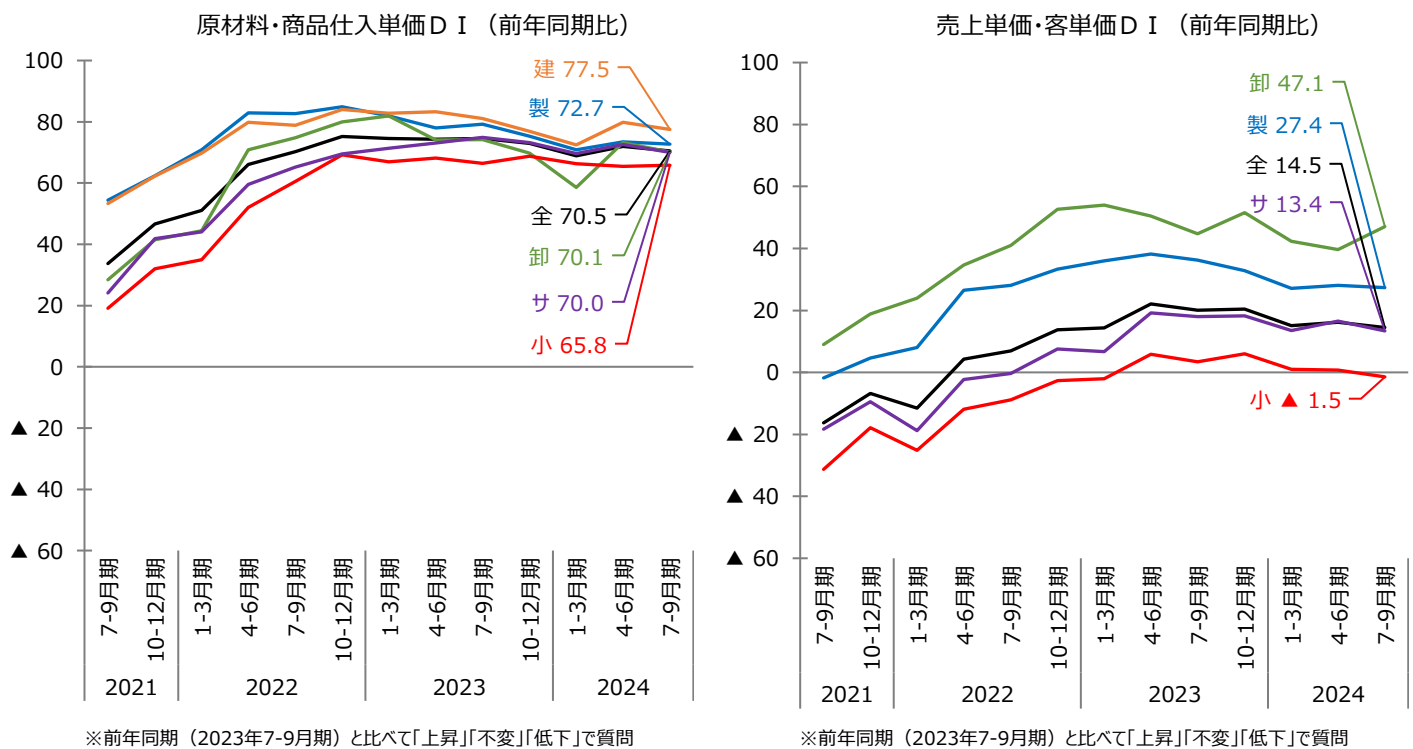
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年4-6月期）より3.2ポイント減の▲19.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、小売業、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の70.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、サービス業、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の14.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、小売業、製造業で低下した。



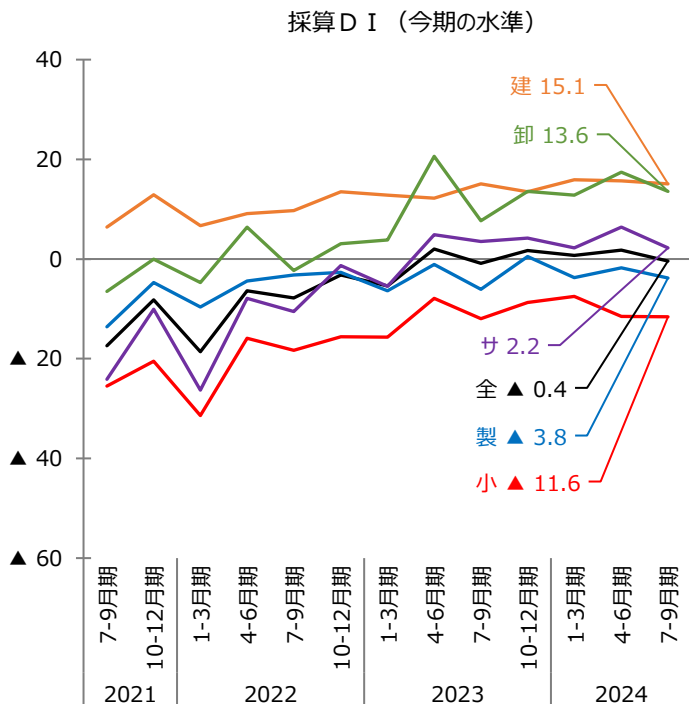
＜調査概要＞ 調査時点は2024年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,793 有効回答企業数：17,679 有効回答率：94.1% うち、九州・沖縄：2,709企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

3. 採算

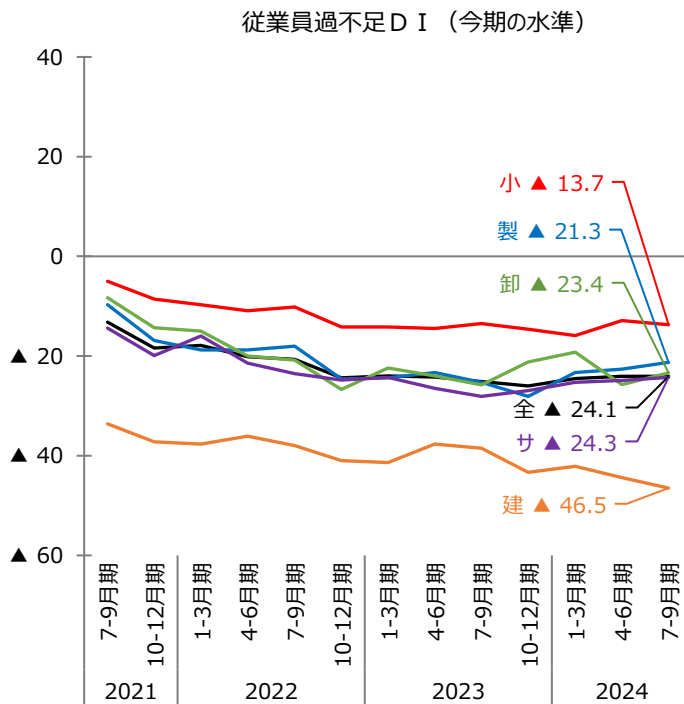
採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント減の▲0.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より横ばいの▲24.1となった。産業別にみると、卸売業、製造業、サービス業で上昇し、建設業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	景気が少し良くなって来ましたが、人件費の上昇など経営の課題が多くまだまだ慎重な判断が続きます。	製造業	船体ブロック製造業
	受注量は安定し、業況・採算ともに例年並みではあるものの、有資格者・若手人材が慢性的に不足状況。新年度の働き方改革に合わせ、新しい業務管理ソフト導入や労働時間短縮に向け試行錯誤中。	建設業	舗装工事業
	弊社の場合、競合他社が少なく恵まれてはいるが、人材確保のため、休日を増やしたことで仕事を終わらせられず、断る物件が増えているのが悩みである。	卸売業	その他の産業 機械器具卸売業
	今夏の猛暑により果物・野菜の全てにおいて生産できなかつたり不作になつたりで商品量が少なく、それに伴い高値がついて、売値に困るほど。生物を使っている上処分をしたりして売上に計上できず赤字が続いている。	小売業	果実小売業
	昨年よりも売上は上昇しているものの、人員確保のため人件費上昇など様々な経費が上昇しているため赤字の状態が続いている。ホテルが大幅に増えて競争が激化。お客様と従業員の取り合いになっている。	サービス業	旅館、ホテル
見通し	円安による原料と輸送費の価格上昇により値上げせざるを得ない状況で、買え控えがおこっているため、海外E Cサイトでの販売を検討している。	製造業	石けん・合成洗剤製造業
	公共工事の影響もあり、内装業者も人手が足りなくなりつつある。しっかりと仕事をとっていききたいが、仕入れ額の増加は気になるところである。	建設業	建築リフォーム工事業
	物価高や観光客の増加に伴い、売上も増加傾向にある為、今後も売上拡大に向けて増員も含めて検討していく。	卸売業	米麦卸売業
	売上は伸びてきており、来期は行楽シーズンで更なる期待が持てるが、台風や地震などの自然災害での休業や設備の故障など不安材料も多い。	小売業	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	メイン顧客の子会社との業務調整を余儀なくされ、制作費の見通しが減りそうなので、利益を保留できるよう商談しています。売上の柱を増やして一社に依存しなくて良い体制作りを努めていきたい。	サービス業	デザイン業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。